



子どもの携帯電話に関する 調査について

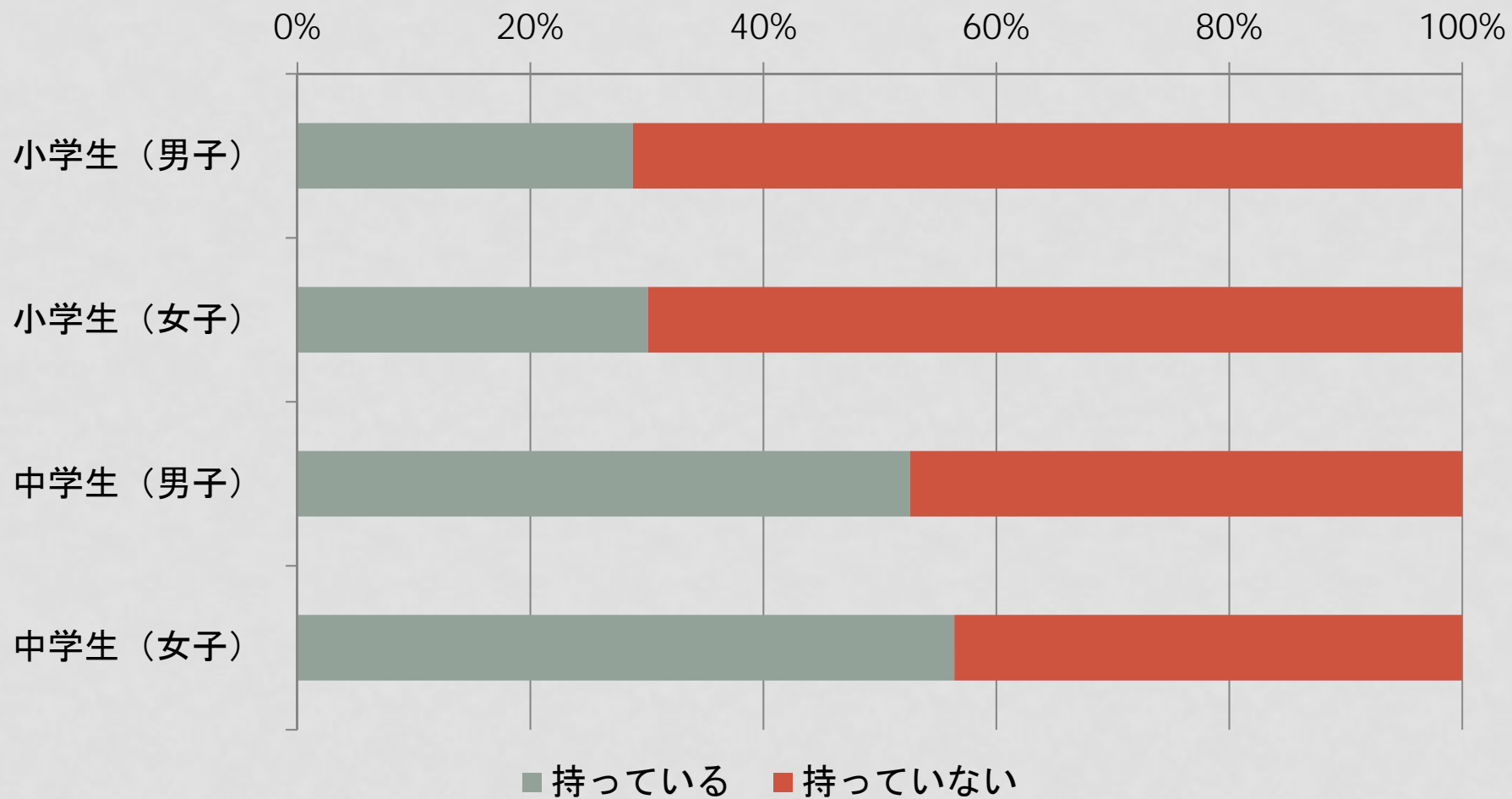
白戸山市教育委員会 （平成22年11月）



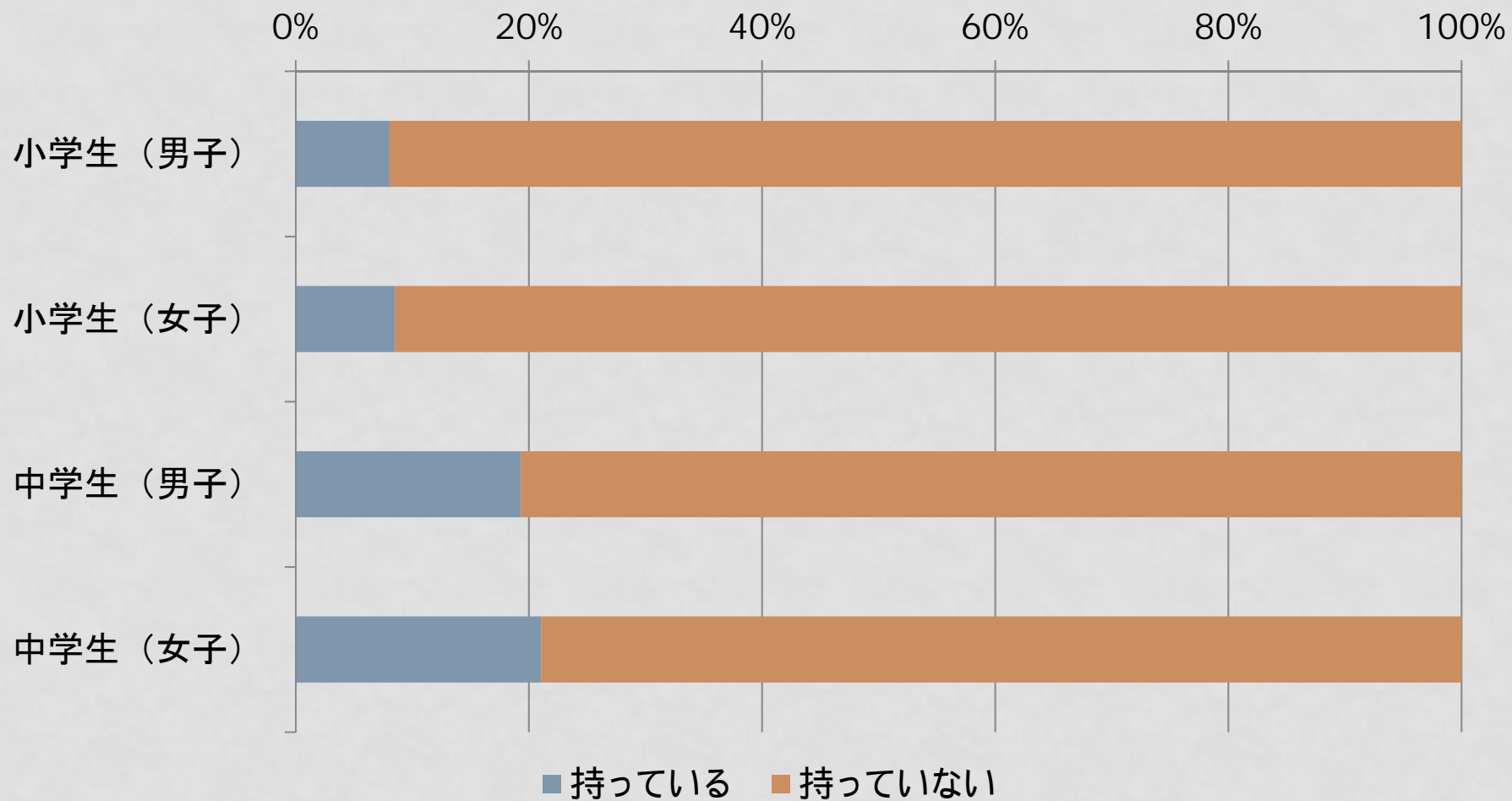
調査概要

- 調査目的
 - 携帯電話利用に関するガイドブック作成のため、生徒および保護者の携帯電話利用についての実態と意識を調査する。
- 調査対象
 - 白戸山市内の公立小学校に通う4～6学年の生徒9,143人とその保護者
 - 白戸山市内の公立中学校に通う生徒8,081人とその保護者
- 調査期間
 - 平成22年10月18日～10月29日
- 調査方法
 - 学校経由での無記名アンケート

調査結果 携帯電話の所有率

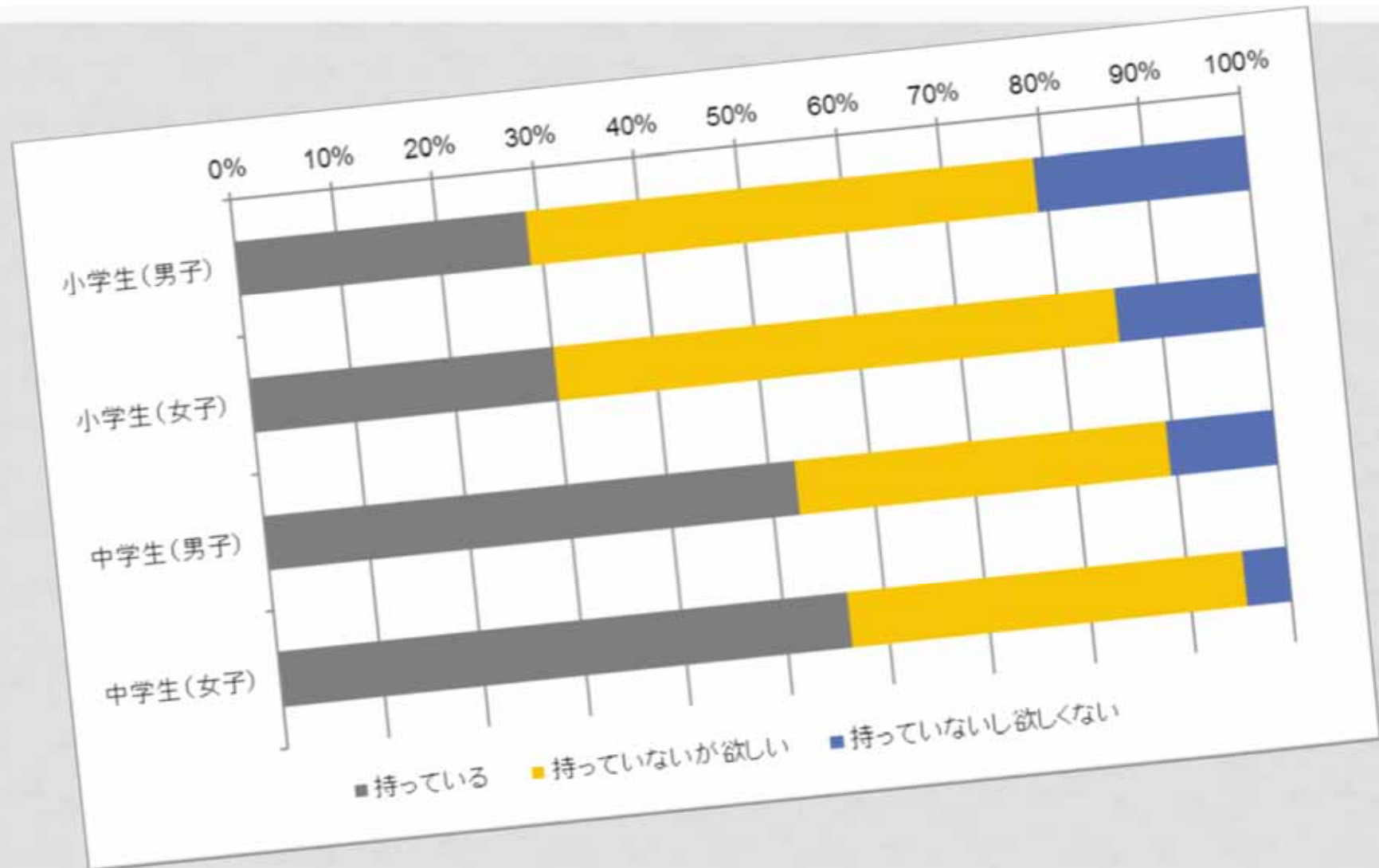


参考資料（平成17年調査） 携帯電話の所有率



調査結果（子ども調査）

携帯電話を持っている？または欲しい？



調査結果

携帯電話を持たせた時期と主な理由

- 小学1～3年生
 - 帰宅時に親が不在のため
 - 誕生日、進学、進級時のプレゼント
- 小学4～6年生
 - 通塾や習い事などひとりで行動することが増えたため
 - 帰宅時に親が不在のため
- 中学生
 - 家族や友人間のコミュニケーションのため
 - 子どもの交友関係で必要だから

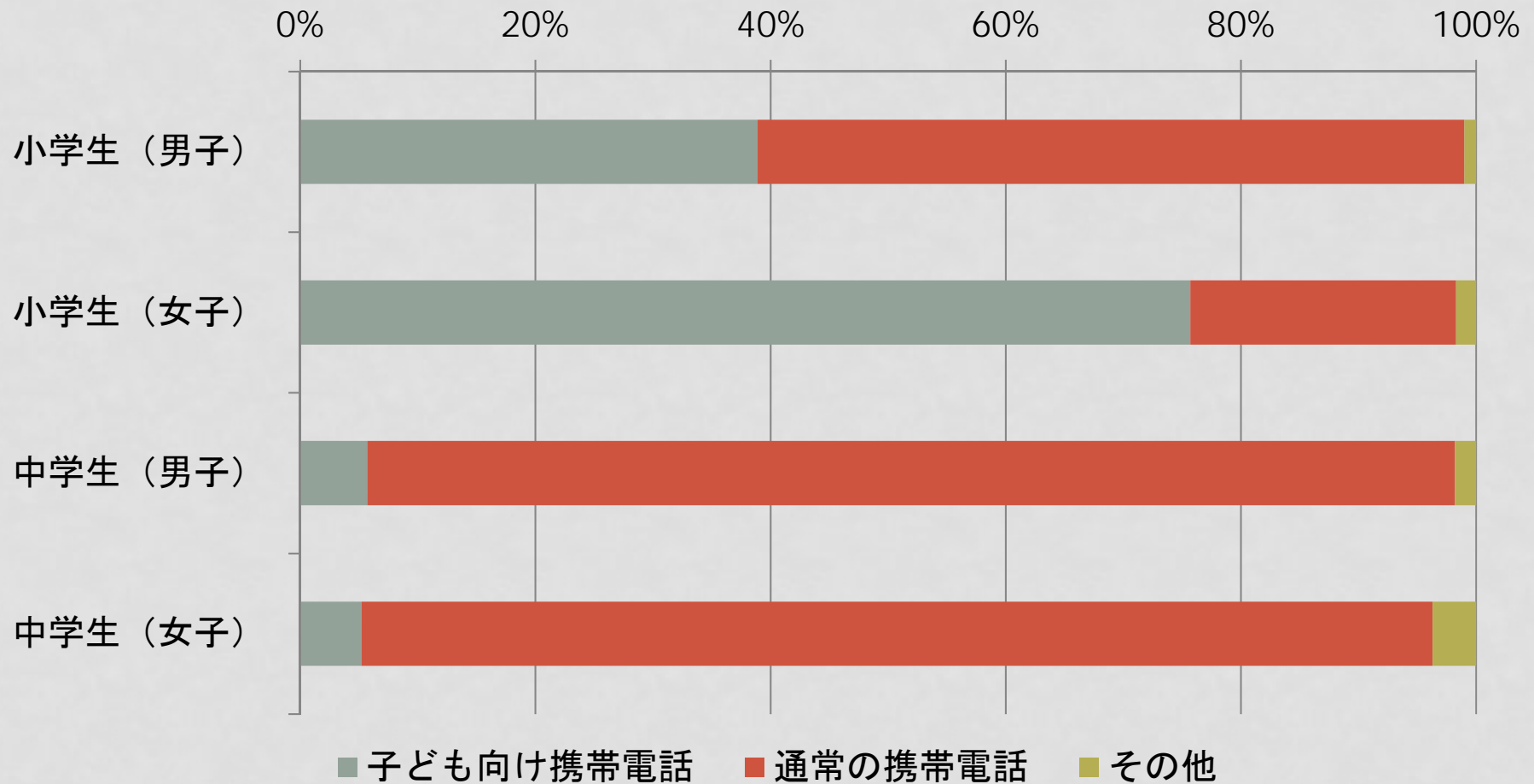
調査結果

携帯電話を持たせない理由

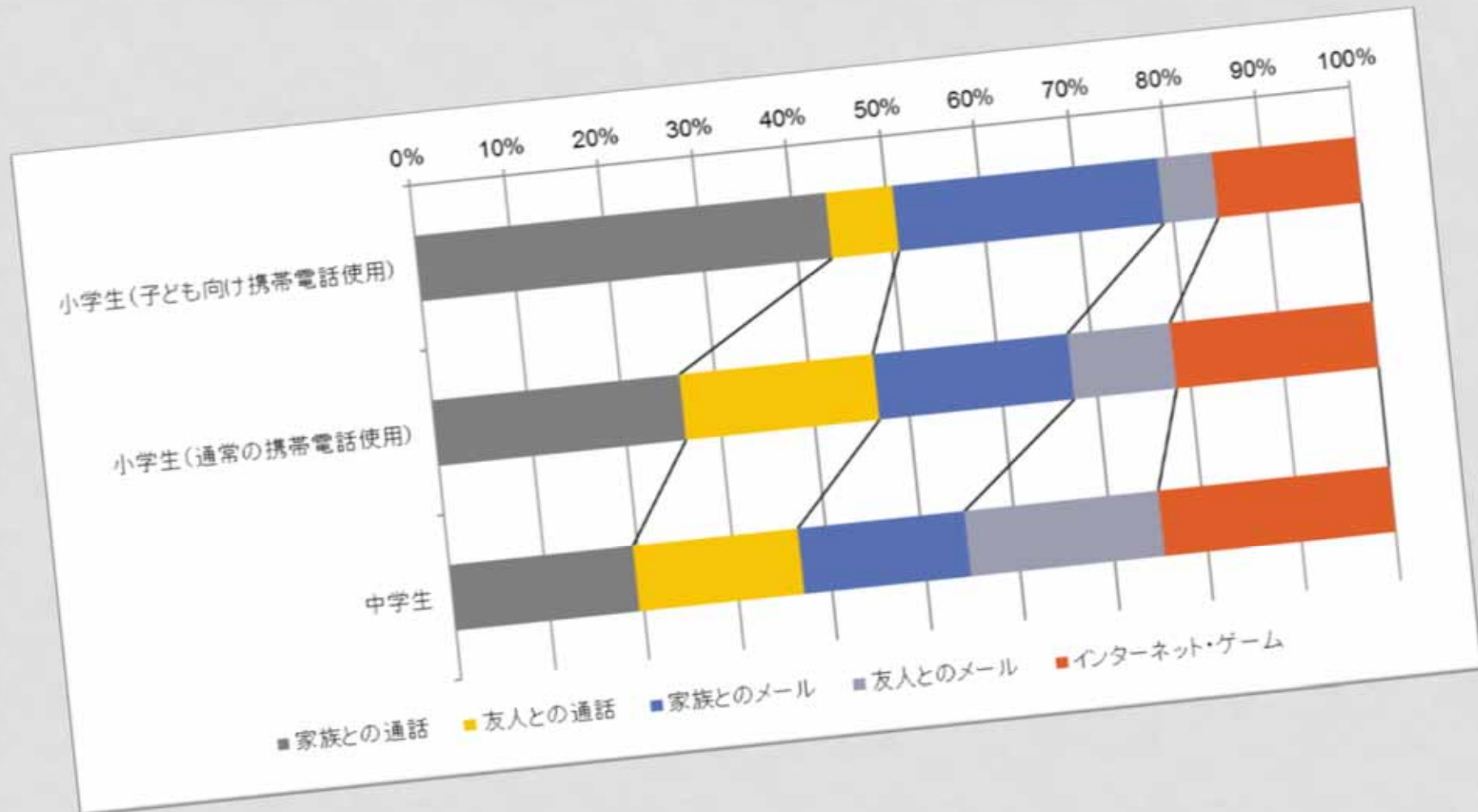
- 小学生
 - 必要性を感じない
 - 子ども自身が欲しがらない
 - トラブルに巻き込まれる可能性がある
- 中学生
 - トラブルに巻き込まれる可能性がある
 - 生活習慣の乱れや勉強の妨げになる
 - 子どもの持ち物としてふさわしくない

調査結果

使用中の携帯電話の種類



調査結果 (子ども調査) 携帯電話を使う目的は何ですか？



調査結果

家庭における携帯電話のルール

ルール	小学生	中学生
料金の上限を決めている	2.1%	5.7%
利用する時間を決めている	1.8%	16.3%
利用する場所を決めている	2.8%	18.1%
通話やメールの相手を限定している	81.7%	3.7%
個人情報を書き込まない	2.0%	29.7%
出会い系サイト、アダルトサイトにアクセスしない	0.3%	19.4%
特にルールはない	8.4%	5.2%
その他	0.9%	1.9%

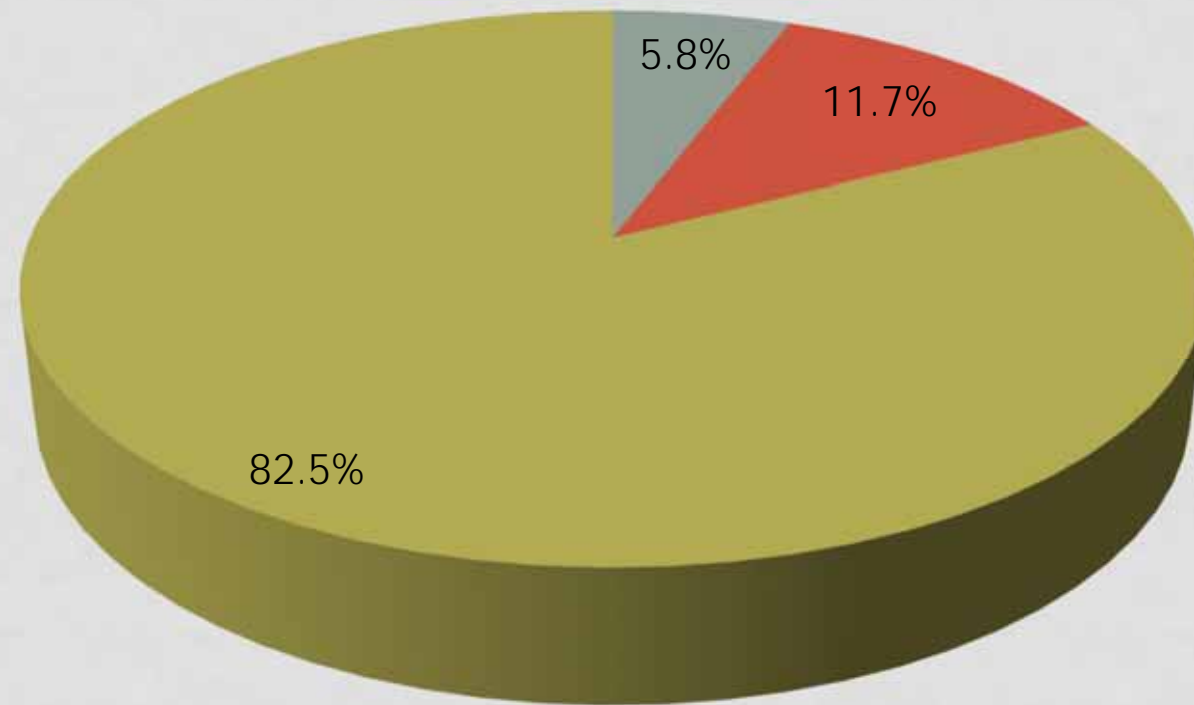
調査結果

携帯電話利用に関する心配事項

心配事項	小学生		中学生	
	所有	未所有	所有	未所有
出会い系サイトなど知らない人との交流	1.3%	2.2%	15.2%	17.6%
ネットやメールによる誹謗中傷、いじめ	18.3%	35.0%	34.3%	34.9%
有害なサイトへのアクセス	1.7%	10.1%	12.1%	10.2%
高額な利用料金の請求	1.4%	6.1%	5.4%	11.3%
家族との時間が少なくなる	2.8%	10.2%	3.8%	3.4%
勉強に身が入らなくなる	4.8%	16.8%	13.9%	10.1%
子どもの交友関係を把握しづらくなる	3.9%	8.4%	7.6%	7.2%
特に心配事はない	62.3%	8.9%	5.6%	2.1%
その他	3.5%	2.3%	2.1%	3.2%

調査結果

フィルタリングの設定状況



- フィルタリングを知っているし、設定している
- フィルタリングを知っているが、設定していない
- フィルタリングを知らない

総括

5年前から大幅な増加

今回の調査で、携帯電話を所有している小学生は29.5%（5年前：8.3%）、中学生は54.5%（5年前：20.2%）と、どちらも大幅に増加していることが認められる。

携帯電話への関心の高さ

子ども調査によると、82.5%の小学生、92.5%の中学生が携帯電話を持っている、または欲しいと思っており、携帯電話への関心の高さがうかがえる。

所有状況

小学生が携帯電話を持つ理由では、「帰宅時に親が不在である」「ひとりで行動することが増えた」などが多く、親が積極的に持たせていることがうかがえる。

小学生は親が主導

中学生が携帯電話を持つ理由では、「家族や友人間のコミュニケーション」「子どもの交友関係で必要」が多く、子ども側からの要望で持たせていることがうかがえる。

中学生は子どもからの要望

総括

子ども向け携帯電話の使用

- 小学生72.6%であるのに対し、中学生3.4%となっており、このことから保護者主導で持たせるか、子どもの要望によるものかが推測される。

携帯電話の使用目的

- 子ども向け携帯電話を使用中の小学生は、通話やメールの相手がほぼ家族であるのに対し、通常の携帯電話を使用している小・中学生は、通話もメールも相手は家族と友人とが半分ずつ程度となっている。
- 中学生では、インターネットやゲームを目的としている割合が最も高い。

家庭内におけるルールについて

- 小・中学生とも90%以上の家庭でルールを設けている。小学生では、通話やメールの相手を限定するものが多く、ネットの利用についてのルールはあまりみられない。これは、子ども向け携帯電話の使用率の高さとリンクしていると考えられる。
- 中学生では、ネットの利用についてのルールがメインとなり、料金の上限や利用時間よりも重視されている傾向にある。

※子ども向け携帯電話

通話やメールの相手、時間などを限定したり、インターネットへの接続を制限したりした携帯電話。GPS機能が搭載されており、子どもの居場所の確認などに利用されることも多い。

総括

携帯電話の利用に関する心配事について

- 携帯電話を持っていない子どもの保護者の方が、携帯電話を持っている子どもの保護者より、多くの点で携帯電話の利用を心配している。
- 携帯電話を持っている小学生の保護者は、子ども向け携帯電話を持たせている割合が高いことから、特に心配事はないと回答していると考えられる。
- 中学生については、携帯電話を持っているいないにかかわらず、ネットの利用や生活習慣への影響などについて心配する保護者が多い。
- ネットの利用について心配する保護者は多いが、フィルタリングについては関心を示さない保護者が多数いる。



フィルタリングの認知度を上げるための啓発活動が必要

※フィルタリング
子どもにとって有害なサイトへのアクセスを制限し、閲覧することを防ぐ機能。

ガイドブックの作成にあたって

対象者

- 小・中学生の保護者

提供

- 小・中学生で利用する機能が大きく異なるため、別々の提供とする。
- 平成23年4月を提供予定とする。

内容

- 子ども向け携帯電話の推奨（小学生）
- 携帯電話に関するトラブルや犯罪（ケーススタディ）
- フィルタリングの設定について
- 家庭内における利用ルールの取り決めについて
- 学校との連携について

資料イメージ

